

2013-2014 ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

Fin



国際ロータリー第2510地区 2013-2014年度ガバナー 安孫子 建雄

2013-14年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES



国際ロータリー第2510地区 2013-14年度 行動指針

- I 大震災復興への支援事業継続
- II RI戦略計画・財団未来の夢計画の理解と奉仕事業実践
- III クラブの運営を点検し会員の参加意欲向上を図り
会員の維持増進につなげよう
- IV グループ・クラブ間の交流を盛んにし会員の世界を広めよう
対面での交流を基本とし、情報交換にITを活用しよう

CONTENTS

目次	ガバナーメッセージ	1
	2014年シドニー国際大会・北海道ナイト報告	5
	現新ガバナー補佐引継ぎ会議と 現新地区ガバナー補佐・地区委員長合同引継ぎ会議報告	6
	第12グループのIMを終えて	8
	第7グループ・インターシティミーティングを終えて	9
	2013-2014年度ガバナー補佐退任のご挨拶	10
	2013-2014年度地区委員長退任ご挨拶	15
	第24回日本ロータリー親睦ゴルフ北海道大会開催報告	27
	米山寄付・ロータリー財団寄付	28
	長万部ロータリークラブー花見例会報告ー・新会員のご紹介・訃報	29
	出席率・会員数	30



2013-14年度 ガバナー月信最終号に因んで

国際ロータリー第2510地区

2013-2014年度ガバナー **安孫子 建雄**
(江別RC)



最初に2510地区各クラブ会員の皆様、地区役員、地区委員会委員の方々そしてパストガバナーの諸先輩に心からのお礼と感謝を申し上げます。

ガバナーを務める機会を戴き、ノミニー、エレクトを含め三年間夢中で走ってきました。

いま皆さんからいただいたものに比して、お返しできるものの少なさに恥じ入る思いです。

今回はロータリアンであることの意味合いを改めて認識することが出来ました。

多くの人と出会い、語らい、一緒に事業に汗を流しながら、我が身が変化し新しい自分が生まれてくることに気づくことが出来ました。

さて私達はロータリークラブへ何故入会したのでしょうか？

自薦他薦いろいろかと思いますが、入会してまず何を感じましたか。28年前江別クラブへ入会した時は90名近い会員がおり、市内の著名な方々が多くおりました。父の事を良く知っておられる方も多く、JC時代（私は途中退会）の先輩たちに再会することともなりました。

小さい街とはいえほとんど会社人間でしたから近所付き合いもないまま過ごしておりましたから、新たな仲間や友人が増えてきました。

先輩たちからの勧めで保護司を経験したり、教育委員を拝命したり、商工会議所へ出向くようになりました。

いま思い出しても不思議な縁を実現したのがロータリークラブでした。結果はどうであっても様々なことが始まったと言えます。

多分出会うことも、声をかけることもなかった多くの人びとと垣根なく集い新しい世界を広げる事のできる此の素晴らしい仕組みをこれからも大切にしていきたいと思います。

ポール・ハリスが最初に描いたロータリーの絵柄は其後会員の拡大に伴ってクラブ、地域、国を超えて広がるに連れ変化してきました。

やがて110年になるうとする我がロータリーはポールの想像を超えて変化してし、その結果巨大な組織体が出来上がっています。

我々メンバーはその組織体の一員であったとしても組織全体を見渡すことのできる人は多分わずかであろうかと思いません。

R I が送り出す膨大な情報、ロータリージャパン、地区か



らのお知らせなどそれぞれに目を通すことはほとんど不可能に近いと思います。

いつもしっかりとその動きを見ていないといつの間にか置いてきぼりになってしまいます。

ガバナーとしてできる限り情報の収集に努めそれを地区の会員の皆さんにお伝えする事を目指してきましたが結果はどうであったでしょうか。

R I 会長の命を受けてR I 役員として地区のガバナンスを実行する役割は私自身にとって荷のおもすぎることであります。

R I は各クラブによって構成されます。

R I 会長、理事は全世界3万4千超のクラブとどのように関わるのでしょうか。

世界をゾーンに分け地区に分けそこにガバナーを置きクラブとつながる構図になるのでしょうか。120万人の会員はその仕組の中で一つになって奉仕する姿を実現するとなっています。

世界規模で集まるR I の会議には国際協議会（GE研修）、国際大会があります。

これらは多分お祭りの要素が多く真に国を超えて交流を果たせる仕掛けにはなりません。もっとも日本人の多くは言葉の壁に阻まれることが多いとは思いますが。

「doing good in the world 世界で良い事をしよう・・・国で、地域で」の掛け声のもと私達は内外を問わず様々な奉仕事業を展開しています。

未来の夢計画は財団（TRF）の姿を変えつつありますし、これからより多くの奉仕事業が展開されていくことと思います。

そんな流れから、ややもすると奉仕団体のロータリーになっているのではと危惧する方も少なくありません。

しかし私はR I の方向性、戦略計画を柱として私達自身のクラブを持ち、運営し、メンバーが人間としての成長発展を果たしていく事を目指すべきだと考えます。

ポールが始めたことの原点を今一度学び直し、人と人のつながりが社会を作っているという当たり前のことに気づく機会をロータリーから得ることができるのです。

はなしを変えて公式訪問に触れたいと思います。クラブを訪れて私は「地区の皆さんの全てにお会いできるのはガバナーだけができることです」と申し上げました。

71クラブ2,600人の数は少なくはありません。過去には4,000人を超えていましたが、それでも現状はまだまだ多くの会員が集う地区となっております。100名超のクラブあり、一桁メンバーのクラブありで様々なクラブの姿を見ました。そんな中感じたのは言うまでもありませんが地域性と言うか、職業の姿というものがクラブの個性となってあらわれていることでした。

まさに地域を支えておられる人々の集まりの感がありました。そこでは「これぞロータリー」と言える姿を見ることが出来ました。

今人口減少が始まり、地方のみならず大都会でも困難な問題に直面する中で、ロータリークラブの使命はまさに地域に奉仕し継続できる社会を作る中心になることではないかと確信してきました。

これから日本のどこはなくなり、ここだけは残すということも起きるかもしれませんが、日本中のロータリアンが共通問題として人口問題を捉え危機意識を共有すべきではないかと考えます。



2510地区も2500地区も同じ課題に取り組めれば「地域で良い事を」の精神を実現できるのではないのでしょうか。

地域の行政や経済団体、福祉団体では出来ない専門分野を超えたつながりをロータリーは提供できます。

クラブ運営でのCLPの取り入れは形にとらわれず、CLPの目指す方向性に沿って行うのが良いと思います。少人数クラブでは掛け持ちが多く、大人数クラブでは分業が行き過ぎて役割が重複する事があります。要はメンバーの多くが自分の役割を持ち存在感を得られるようにすることではないでしょうか。

もう一つ、欠席の多いメンバーには、欠席することが自分だけでなく出席を期待している他のメンバーに会える機会を失うことを理解させてほしいと申し上げてきました。休んで得はないということでしょうか。

さらに感じたのは研修のことです。昔は入会したての頃「そのうちにロータリーをわかってくるよ」と言われつつも結構教えられながら成長してきたものです。

体系的にしっかりと我がロータリーの基本を知らなければなりません。

それは新入会員でも長年の会員であっても同じかと思えます。

古くて新しいのが基本です。研修を必ず受けロータリーの目的を理解しなければなりません。

地区の研修委員はもとよりクラブにおいても研修担当を持つことが大事です。

会員を増やすことは必要です。何故でしょうか今更言うまでもありません。現状のメンバーはいずれ退会します。ロータリーを理解し共鳴して入会する人の継続がなければ、ポールの目論見は終わってしまいます。

闇雲に数を追うのではなく、本当にロータリーを理解して真の会員になる人を見つけましょう。また辞めていく人のことも今一度見つめてみましょう。

私達はまわりの人々すなわち会社、家族、知人、友人にロータリーの事をどれだけ理解してもらっているのでしょうか。

周りの人達にロータリーの心が伝わっているのでしょうか、今一度見つめてみてはいかがでしょうか。

私はロータリアンですとわざわざ断るまでもなく、もしかしたらあの人はロータリークラブの会員でしょうかと思われる存在になれることを目指したいものです。

「4つのテスト」は簡潔に私達の行動や言動の有り様を示しています。難しい理論や理屈ではなく、心に指針を置きながら人と接することができる人間として切磋琢磨し成長を目指し、奉仕する人になりたいとおもいます。

地区のことに触れます。地区の組織DLPの完成はこれからでしょうか。地区のあり方は継続性を持って検討し築いていかなければと思います。

ガバナー年度ごとに方針が大きく変わるのではなく中長期に見通して計画を持つべきです。

そして71クラブそれぞれの姿を共有することでお互いの理解が深まり、新たな活動の方向を考える事につなげてもらいたいと思います。

それにしてもRI会長の考えは（会長方針ではなくRIの方針であると言われてきましたが）毎年変わるのはいかながなものでしょうか。

職業や専門職種を基本としてメンバーを募るのはポールのアイデアですが、これだ



け会員が多くなると職業分類は大変かと思います。

しかしそれがロータリーの真骨頂です。同業者の団体とか親しい仲間だけがつくるクラブではこれだけ多くの多様性には出会えません。

このことが今の社会にあって求められる大事な要素ではないでしょうか。

此の度はガバナーの務めを山登りに例えて麓を出発したのは熊澤年度の始まりからです。我が年度は八島代表幹事の支えに始まり幹事や地区委員会の皆さんの素晴らしい力を戴きながら、山を登りました。

さらに日本各地区の同期ガバナーたちの支えは大きな力になりました。

山の頂上は地区大会であったでしょうか。色々なことが思い出されます。

多くの会員の参加は地区の一体感を体験する瞬間であったと思います。

「超我の奉仕」我を超える心で人につくす姿がそこに見えたことでした。

顔と顔、声と声を生の姿で交わすことの喜びが生まれます。

初めてあう人でも長年の知己のように接する事を可能にする不思議さはロータリーマジックではないでしょうか。お互いに語り合ううちに共通項を見出し理解と信頼が生まれます。

日常のクラブ活動だけでなく、よそのクラブを訪問するのもよいでしょう。ビジターにはクラブの皆さんが「ウエルカム」でお迎えしましょう。

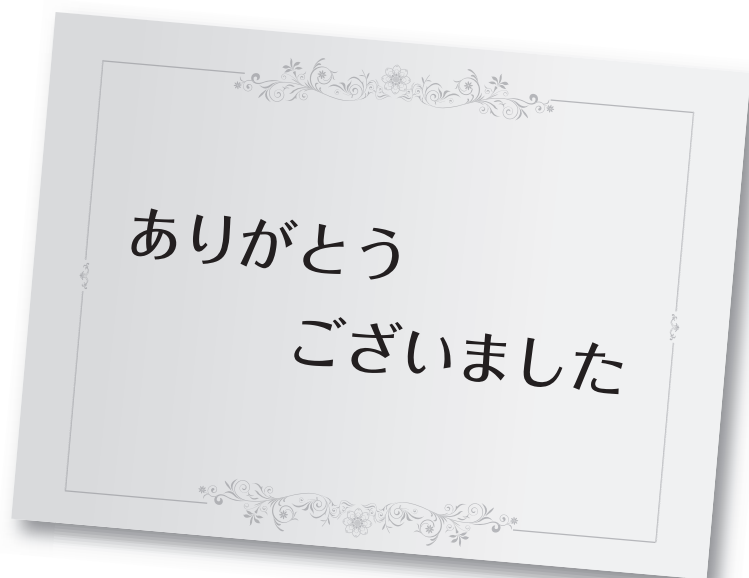
ガバナーとしてよかったことの一つに、家族の理解と協力（2歳の孫も含め）特にワイフのサポートが素晴らしかったことがあります。ガバナー会での夫人たちのネットワークはガバナーだけでは成し得ない成果を生み出しました。社内の協力、友人たちの励ましなどたくさんもらいながら最後まで健康で無事任務を達成出来ました。

これからはガバナーを終えてから皆さんに遅ればせながらこれまで得られた経験・体験・知見をお返ししながらロータリーを回して参ります。

改めて皆様からいただいたご厚情ご協力を深く感謝申し上げ、ガバナーの務めを終えさせていただきます。本当に有難うございました。

2014年6月30日

2013-14年度R I 2510地区ガバナー 安孫子建雄 江別RC



2014年シドニー国際大会・北海道ナイト報告

地区国際奉仕委員会

委員 西方 洋 昭
(岩見沢RC)

6月1日から6月4日までのR Iシドニー国際大会、6月2日夜に開催された北海道ナイト（北海道西部）に司会進行役として行って参りましたので報告致します。

今回の国際大会には、第2510地区から約70名の参加、1日目の本会議、2日目のプログラムを終え、ほっと一息ついたところでの参加者揃って北海道ナイトを迎えました。

開催場所となったのはオペラハウス対岸の「Yuki's at the Quay」（ユキズ・アット・ザ・キー）国際客船ターミナル2階にある寿司や海鮮物を主とした日本料理店。午後6時、今回のシドニー大会参加者が徐々に集まりはじめ、ウェルカムドリンクで喉を潤しながら、対岸のオペラハウスに映し出される色鮮やかなプロジェクションマッピングを観覧。シドニー大会期間はViVid Sydney（ビビッド・シドニー）と呼ばれる光と音の祭典、美しい映像がビルや建物に映し出される南半球随一のビックイベント真っ最中。



北海道ナイト参加者は美味しいオーストラリアワインと光と音の芸術を官能。午後6時30分、私、西方（岩見沢RC）と出村（札幌北RC）の司会により、R I国際大会推進委員会の熊澤委員長の開会宣言により北海道ナイトをスタート。安孫子ガバナーより「シドニーの夜を楽しみましょう」と、開会のご挨拶。嵯峨ノミニーの乾杯のご発声で祝宴開始。最高のロケーションの中、美味しい日本食、美味しいワイン、美しい映像と音楽の中、シドニーの夜を満喫。ほろ酔い気分の中、サプライズとして「6月誕生祝い」バースデーケーキを囲んでハッピーバースデー。その後、地区役員紹介、参加クラブ紹介。静内クラブさんからは、来年のサンパウロ大会への意気込みが伝わる挨拶。また、5年以上北海道ナイトに多数参加された札幌真駒内RCへ安孫子ガバナーより感謝状が手渡されました。大盛り上がりの大抽選会終了後、次年度抱負と御礼として、羽部ガバナーエレクトよりご挨拶。

最後に佐々木パストガバナーによる一本締めにて閉宴。参加者全員による記念撮影にて北海道ナイト終了。例年であれば初冬のシドニー気温は10℃を下回るほどの気温であるが、ロータリーの熱い人々が集まったからか？晴れ男、晴れ女が世界中から集まったのか？昼間20℃近くなるほど過ごしやすく、晴天の中、とても天気に恵まれたシドニー大会でした。以上2014年R Iシドニー国際大会、北海道ナイト報告とさせていただきます。



現新ガバナー補佐引継ぎ会議と 現新地区ガバナー補佐・地区委員長合同引継ぎ会議報告

地区幹事 山田 誠
(江別RC)

去る6月15日(日)シェラトンホテル札幌に於いて、現新ガバナー補佐引継ぎ会議と地区委員長合同引継ぎ会議が開催されました。

午前部の部として、現新ガバナー補佐引継ぎ会議が行われ、午前10時30分より八島壯之地区代表幹事の司会のもと、安孫子建雄ガバナーの開会の挨拶が行われ、その後12グループのガバナー補佐より1年間の活動報告がなされました。

引続いて田澤泰明次期地区代表幹事より、次期ガバナー補佐12名が紹介され、それぞれ次年度へ向けての活動計画が発表されました。午前部の部の終りに、羽部大仁ガバナーエレクトから閉会の挨拶が行われ、午後12時35分午前の会議を終了致しました。

約1時間の休憩の後、午後1時30分より午後の部として、現新ガバナー補佐・地区委員長合同引継ぎ会議が開催され、司会進行の八島壯之地区代表幹事のもと、安孫子建雄ガバナーより開会の挨拶があり、羽部大仁ガバナーエレクトから合同会議に当りお話がありました。

引続き、当該年度地区委員長の活動報告がなされ、続いて次年度地区委員長から活動計画が発表されました。

各委員長の熱意あふれる報告ならびに計画発表が行われたため、予定時間が不足し休憩時間を取らずに進行した結果、ガバナー事務所・エレクト事務所からのお知らせと報告を終え、午後4時00分、嵯峨義輝ガバナーノミニの閉会の挨拶で全ての会議を終了致しました。

午後4時過ぎから、田澤泰明次期地区代表幹事の司会進行のもと、現新役員のコングレガーションが開催され、安孫子建雄ガバナーの開会の挨拶、羽部大仁ガバナーエレクトの乾杯のご発声で懇親会が和やかに進行致しました。

毎年この時期に開催される合同引継ぎ会議でしたが、終えていく人々の安堵と達成感、これからスタートする人々の緊張感と不安感、一人ひとりの顔に現れた微妙な表情の違いを感じつつ(筆者)、午後5時30分全てのスケジュールを終え閉会致しました。本当にお疲れ様でした、そして頑張ってください。







第12グループのIMを終えて

第12グループ・ガバナー補佐

児玉 和雄

(苫小牧東RC)

2013-2014年度国際ロータリー第2510地区第12グループの4クラブ(苫小牧、苫小牧北、白老、苫小牧東)で、2014年5月11日(日)に苫小牧市内表町のグランドホテルニュー王子において開催いたしました。

当日は、大変ご多忙の中、苫小牧市長岩倉博文様、安孫子建雄ガバナーのご臨席を賜り、大盛会の中で執り行われました。

この度の、インターシティミーティングは三部構成となっており、1部には『外国人による日本語弁論大会』を開催し、2部に式典、3部に懇親会といたしました。

1部の弁論大会にはタイやマレーシア、オーストラリアなど出身の留学生や外国語講師、主婦ら11ヶ国、14名が出場し、苫小牧での実体験や日本社会に思うこと、将来の夢といった、さまざまなテーマで熱弁をふるい、国籍や文化の違いを越えて相互理解、国際交流を深め、異文化を尊重できる社会づくりを企画いたしました。

外国人に日本語で意見を発表する場を提供することで、「聞く人たちにとっても、日本や今後の在り方を探求する上で開けた視点を得る貴重な機会になれば」と思い実施いたしました。

当日の来場者は、一般市民、ロータリアンを含め350人を前に、流暢な日本語で日ごろ感じたことや母国と日本の違いなど語っていただきました。

審査は審査員5名によって審査され、グランプリには、マレーシア出身の苫小牧工業高等専門学校留学生のアチャナ・ダシニさん(21)が輝き、準グランプリにはミャンマー出身の主婦、ポポチッさん(28)、特別賞にマレーシア出身の苫小牧工業高等専門学校留学生、チュア・ティオン・ズーさん(20)が選ばれました。

グランプリに輝いたアチャナさんは「日本の好きなところ」をテーマに暖かい便座など、機能が充実したトイレやシステム化されたゴミの分別・収集などについて発表しました。

わずかな、審査時間ではありますが当日、苫小牧出身の民謡歌手、【伊藤多喜男& TAKI OBANDO】によるライブ・コンサートを行い、来訪者の方々に楽しいひと時を過ごしていただきました。

式典も厳粛の中、粛々と終了し懇親会に入り、苫小牧市長岩倉博文様のご祝辞を頂き、続いて安孫子建雄ガバナーの乾杯の音頭で出席者全員で、親睦を深め、互いの絆を強くすることを誓い合い、恒例になっております「手に手つないで」の大合唱でした。

12グループのロータリアンの皆様のご協力のもと、無事終了できましたことを、心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。





第7グループ・ インターシティミーティングを終えて

第7グループ・ガバナー補佐

大川 健一

(恵庭RC)

2014年5月24日(土)、恵庭市民会館において第7グループのインターシティミーティングを開催しました。当日は来賓として、安孫子建雄ガバナー代理、佐藤秀雄パストガバナーをはじめ、基調講演をして戴きました福田武男地区職業奉仕委員長、その他、第7グループ6クラブから130名の参加を戴き、盛大に開催致しました。

今回のIMのテーマは各クラブが抱えている諸問題を第7グループ全体で考えようと、テーマを「ロータリーを語る～今クラブが抱えている問題～」と題名をつけ、福田地区職業奉仕委員長に基調講演をして戴きました。その後に佐藤秀雄パストガバナーから会員の退会防止についての講演をして戴きました。

懇親会は恵庭ロータリークラブ会長、水野 凡より歓迎の挨拶から始まり、日中晴天の中で開催されましたスポーツ交流会、ゴルフ、ボーリングの成績発表が行われ、余興の部では地元恵庭市在住で各地区の民謡大会で入賞している村川長一さん、村川絵里さんをはじめ民謡友の会のみなさんに、素晴らしい民謡を披露していただき、会場も大いに盛り上がりました。

最後に参加者全員で輪になって「手に手つないで」を歌い、各クラブ友情を深めることができ和やかに終えることができました。



2013-2014 年度 ガバナー補佐退任のご挨拶

ガバナー補佐退任にあたって



第1グループ担当
ガバナー補佐
茶谷 恵一

ガバナー補佐としての大役に、当初は大変、不安と緊張の中でのスタートでしたが、各クラブ例会訪問には、会長さんを始め会員皆さんから快い歓迎を受け、改めてロータリアンの友情に感謝の気持ちでいっぱいでした。

安孫子ガバナーのテーマ「ロータリアンの基本を見つめ、変革するロータリアンを实践しよう」に基づき、各クラブや各会員に少しでもお役に立てればと思いながらクラブ訪問をさせて戴きましたが、各クラブにはそれぞれ長い歴史や伝統があり、その地域に合ったクラブ運営や地域社会のニーズに合ったロータリアン活動を行っている事に大変感銘を受けました。

又、都市連合会（IM）には、安孫子ガバナー、丸山パストガバナー、そしてグループの会長・幹事、会員多数のご登録、参加を戴きまして盛会裡に終える事が出来ました。心から感謝とお礼を申し上げます。

特に、大変ご多忙の中、丸山パストガバナーには基調講演までして戴き、大変有意義なIMであったと改めてお礼を申し上げます。

私にとってのこの一年間の経験は忘れる事の出来ない良い思い出になる事でしょう。終わりに「浅学非才」な私を今日までご指導を戴きました関係者の皆様に心から感謝とお礼申し上げます。

ガバナー補佐を終えて



第2グループ担当
ガバナー補佐
竹田 俊一

一年間、第2グループのガバナー補佐を務めさせて戴きました。会長・幹事会でグループの諸問題についての打合せ、安孫子ガバナーに同行した公式訪問、補佐として各クラブへの訪問、4月には、「ロータリアンの奉仕・支え合う地域とのつながり」をテーマにIMを開催できました。IMの目的である会員相互の親睦と交流を深め、ロータリアン活動の明日へのさらなる前進を誓いました。

私にとって、各クラブ訪問はそれぞれ个性的に活動されていることを知る機会と多くの友情に支えられ、大変貴重な経験をさせて戴いて、楽しい一年間でした。

お蔭様で一年間を無事に終了出来ました。第2グループ各会長・幹事、そして会員の皆様のご協力に感謝を申し上げ、ご挨拶と致します。

ガバナー補佐退任のご挨拶



第3グループ担当
ガバナー補佐
大竹 繁夫

大任をお受けしてからの一年間、老骨に鞭打って務めてまいりましたが、得たものの大きさに深く感謝を申し上げます。安孫子ガバナーはじめ、ロータリアン各位に心から厚く御礼申し上げます。

私の座右の銘は『温故知新』ですが、まさにこの一年間、皆様から戴いた広く、大きな友情を「天の時」「地の利」「人の和」に併せて人生訓として拳拳服膺してまいりたいと存じます。

結びに明治天皇御製「よき友と交わりてこそ自ら人の心は高くなりけり」を謹掲し、御礼のご挨拶とさせていただきます。

一年間のご支援に感謝



第4グループ担当
ガバナー補佐
玉造 啓子

安孫子ガバナー、地区役員の皆様、第4・第5グループのクラブ会長、幹事、会員の皆様、一年間ご支援ご協力を賜りました事に対しまして深く感謝を申し上げます。

安孫子ガバナー年度、第4・第5グループは、IMはその意義等の再考をも含めてお休みさせて戴きましたが、「札幌市内ロータリークラブ交換留学生支援基金」として基金の運営をより明確な方法に決めることが出来ました。

第4グループ・ガバナー補佐としてこの一年間、各クラブを訪問させて戴きました。沢山の「熱心でアクティブな活動闊達な素晴らしいロータリアン」にお会い出来ました事は自分自身の長い人生、まだまだ未熟なロータリアン人生ですが、最も貴重な経験をさせて戴いたと感じています。

一年間大変ありがとうございました。

アワードバンケット



第5グループ
地区ガバナー補佐
小田切房之

安孫子ガバナーの下で一年間8クラブに通算24回訪問させて戴きました。会長・幹事さんを始め多くの会員の方々と交流する事が出来ました。厚く御礼申し上げます。お話を伺って感じました事は各クラブ共素晴らしい奉仕活動をされています。然し残念ながら日本人特有の奥ゆかしさからか広報活動を遠慮しています。RIは公共イメージの向上を薦めていますが主たるプログラムはグローバルな奉仕プロジェクトに焦点を当てています。一方で脚下照顧とも申します、地域密着の奉仕こそが公共イメージの向上に寄与するのではないのでしょうか。地域の人々にとって身近かに接するロータリー徽章がブランド力を高め会員増強に繋がって行く、そんな循環する力がギアマークに込められている様な気が致します。本年度の地区大会も大成功でした。願わくば登録数と参加者数がもう少し近づくのが理想ではないでしょうか、個人的なアイデアとしてクラブの奉仕プログラムの事例発表を兼ねたアワードバンケットを工夫してはどうでしょうか。参加して良かった地区大会、出会えて良かった地区大会、又参加したい地区大会がもしかしたらロータリーのエンジンになるかも知れない。

過ぎてみると早いもの、この1年



第6グループ担当
ガバナー補佐
舩井 齊

～ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を～ ロンD.バートン年度のテーマを掲げてスタートを切り、あっという間に1年が終わりました。

我がグループ7クラブは東西130キロに点在しており、何をやるにも時間との勝負でした。クラブ訪問では好意と友情を持って温かく迎えて戴き、それぞれのクラブの特色ある運営をつぶさに学ばせて戴きました。又、色々とお願ひした中で「SAKUJI作戦」の2年目を迎えた会員増強は女性をターゲットに…更に「未来の夢計画」に関わる財団への寄付増額についても先々良い結果がでるものと思われま

※IMの開催に当たり、安孫子ガバナーのご推薦を戴き、宮司正毅当別町長の講演で誠に好評を博したこと。(近くロータリーの友に掲載されます)

※小樽RC創立80周年記念行事で年をも顧みず「潮まつり」の練り込みに参加、ガバナーと共に90分踊り通したこと。

※留学生を始め、大学・高校生・一般市民を交えての第1回市民国際交流会議が

開催され、分科会テーマ「国際交流・日本の教育・小樽観光」を掲げての活発な討議がなされ誠に有意義であったこと。

等、数え上げれば限りない程の思い出を戴く事が出来ました。総て支えて下さった安孫子ガバナー始めグループ会員各位のお陰と心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶と致します。ありがとうございました。

ガバナー補佐を終えて



第7グループ担当
ガバナー補佐
大川 健一

思えば不安っぱいのスタートでしたが、グループ内各クラブの温かい御協力と御支援、又、力強く支えてくれた所属クラブに心より厚く感謝申し上げます。

今年度のガバナー方針を実現するべく、各クラブを訪問させて戴き、ロータリーの友情をしみじみ有難く感じいった次第です。

ガバナー補佐として地区と各クラブとの連絡調整とIMの開催が大きな行事でありました。各クラブには、公式訪問、地区大会への参加等で、ご無理を申し上げましたが、IM開催に関しましては、千歳ロータリークラブの佐藤秀雄P G、福田武男地区職業奉仕委員長の強力な後押しを戴き、内容の濃い、欲張りなIMが無事終了しましたのも各メンバーの御協力と感謝しております。

この1年私を支えて戴きました7グループの皆様、ホストクラブ（恵庭RC）の皆様へ感謝申し上げ、皆様方の益々のご発展を祈念申し上げます。

・・成長・そして有意義な充実した1年・・



第8グループ
ガバナー補佐
武田 豊

2012年12月5日付で地区ガバナー補佐委嘱状を戴き、8グループ5クラブの皆様へ（…地域にあなたのクラブの存在感を…）とガバナー補佐の役目は何かと考え思いながら、町内外に幅広くロータリークラブの存在を示して下さいと、お願いしての新しい年度が始まりましたが私自身「あなたのクラブに存在感を」与えられず反省の1年間になりました。しかしながら8グループの皆様はそれぞれのクラブ内におかれては予定の活動を滞りなく収められ、そして地区大会、ガバナー公式訪問、IMに参加協力戴きまして無事予定の事業を終了させて戴きました事を感謝致します。私はガバナー補佐という役割・役目を重く感じ留め不安の中でも充実し、そして何かを得たような気がします。なにを得たかはこれからのロータリー歴でわかっていくのではと考えております。8グループのカテゴリーしか知らない私を安孫子ガバナー、12名のガバナー補佐、そして当8グループ5クラブ全会員の皆様のお力を受け成長させて戴きました、そして有意義な充実した1年間に有難う御座います。

ガバナー補佐の任を終えて



第9グループ
ガバナー補佐
石井 憲一

財団「未来の夢計画」が始動し、懸案の会員増強への取り組みに対する多様な要件が加えられた2013-2014安孫子年度のガバナー補佐の一員として、無事にその任を終える事になりました。安孫子ガバナーの様々な示唆に富んだお話に勇気づけられ、所属する登別RCを初めとして第9グループ全クラブ会員の皆様のご理解と同僚ガバナー補佐からの有益なアドバイスにより、楽しく続ける事が出来ました。有難うございます。

振り返りますと、この一年間はなにかと忙しく、時間に待たないで有ったなどの思いで一杯です。その中で、ガバナー公式訪問を含む4回のクラブ訪問では多彩

な例会卓話に接する事が出来、クラブ訪問は地区から情報を伝える事のみでないと理解しました。さらに、持ち回りで進められた5回の会長・幹事会ではいつも建設的な意見の交換がなされ、各クラブの実情の理解が進んだと思っています。そして、第9グループとして今年度の目標であった地区補助金の活用がグループ事業としての国際奉仕に生かされるなど、3つのグループ事業が成功裡に進められたこと、会員増強において6クラブいずれも減員なく全体で増に転じたことを報告できました事に感謝致します。

最後になりましたが、2014-15羽部年度に於かれましてもガバナー補佐各位のご活躍を祈念し、挨拶とさせていただきます。

ガバナー補佐退任挨拶



第10グループ担当
ガバナー補佐
石山 嘉治

この一年を振り返り就任挨拶で記載したことを全うできたか自問自答しているところです。2012年12月5日に委嘱状を交付され、安孫子ガバナーの運営方針を伝える術を考え、ガバナー月信を手本として就任前から「ガバナー補佐通信」と題して第1号のmailアドレス、携帯番号、FAXなど通信媒体を伝え、以来今月最終号の発行まで毎月発行を重ねることができました。昨年までの積読からガバナー月信、ロータリーの友誌を読み、熟読したのち、読んでほしい記事や私のコメントを添え情報の発信はできたものと思っております。また国際奉仕検証ツアー、韓国大邱地区大会の参加を通じた体験をクラブ訪問時にお知らせし、現地の様子をお伝えしました。

ガバナー補佐を経験してグループ内の会員との交流、同期のガバナー補佐の皆さん、地区委員会の皆さんとの出会いは、この立場にならなければ得られない貴重な体験でした。今後経験を活かして一クラブ会員として奉仕活動を実践していきたいと考えております。

浅学菲才な私ですが安孫子ガバナー、八島地区代表幹事はじめ地区役員、地区委員会の支えにより何とかその任務を終えることが出来ました。ここに感謝申し上げ退任のご挨拶と致します。ありがとうございました。

ガバナー補佐退任のご挨拶



第11グループ
ガバナー補佐
今井 義憲

微力ながらガバナー補佐の指名を頂き、不安の中、就任して一年、お蔭様で任務を全うすることが出来ました。任期中は、安孫子ガバナー始め地区役員の皆様、同僚補佐の皆様、そして各クラブ会長及び会員の皆様には大変お世話になり、またご支援ご協力頂き心から感謝申し上げます。

10・11グループにつきましては、会長・幹事会等すべて合同で運営が行われており10グループ石山補佐と連携を取りながら、地区運営方針「ロータリーの基本を見つめ変革するロータリーを實踐しよう」を目指して活動を行い、無事役目を終える事ができました。

さて、11グループは、ガバナー公式訪問への同行に始まり、クラブ協議会・行事等、各クラブ訪問を実施しながら補佐としての勤めを果たしてまいりました。訪問の折には歓迎を受け、より一層友情が芽生えたものと思います。また多くの方々との出会いがあり、多くの事柄について学ぶことが出来ました。今後は、ご指導頂きました経験を基に、ロータリーの活動に反映して行きたいと思っております。一年間誠にありがとうございました。



第12グループ
ガバナー補佐
児玉 和雄

補佐の1年を振り返って

一昨年12月5日に地区ガバナー補佐（12グループ担当）の委嘱状を頂き身の引き締まる思いと不安でいっぱいでした。

不安と戸惑いながら、ガバナー補佐を引き受けましたが、安孫子ガバナーの温かいご指導と、第12グループ4クラブの会長・幹事を始め各クラブの皆様の友情に支えられながら、私にとって、ロータリー会員であった事が大変幸運であり、有意義な1年でありました。

また、クラブ訪問では、8月6日（苫小牧RC）・7日（白老RC）・8日（苫小牧東RC）・9日（苫小牧北RC）と4日間連続で、安孫子ガバナーには遠路江別より来ていただき有難うございました。

私にとっては、4日間の公式訪問が緊張の連続でしたが大いにロータリーを学ぶ機会であった事を思い出します。

これからは、ガバナー補佐としての貴重な体験を生かし、クラブの一員として少しでもお役に立てる様に一層の努力、研鑽を重ねていく所存でございます。

第12グループの皆様の温かいご指導があったからこそと心から感謝申し上げます。また、安孫子ガバナー、補佐の皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。





2013-2014 年度地区委員長退任ご挨拶



会員増強委員会

委員長：細川 好弘（静内RC・PG）

ロータリーは世界史上最高の人道的奉仕団体であると自信をもっておられる事は当然ですが、ロータリーも世界も変化し続ける環境の中で会員維持が低下している現況について憂慮している情報が伝わっております。

例えばクラブ数が増えても会員総数が増加しないことや、新会員を迎えても次々に退会される現状を見てこの自然減をくい止める為にも、健全で活発なクラブ作り、会員になる事の素晴らしさを伝える等のリソースを活用しなければならないと思います。

R I の130万人目標を受けて取り組んだ「サクジ作戦」の成果は見られませんが、この仕組みを先ずクラブで、次にグループで、更に地区内での情報提供が先決ではないでしょうか。会員増強は永遠の課題であります。歴代R I 会長もこれからのR I 会長も重点事項として継続されると思います。

私たちが問うべきことは「ロータリーとは何なのか」ではなく「ロータリーとは誰なのか」と言われております。ロータリーの未来のために友人を、そしてロータリアンの友情拡大のためにも一人でも多くお誘いしよう。



R I 国際大会推進委員会

委員長：熊澤 隆樹（小樽RC・PG）

2014年6月1日から4日まで、オーストラリア・シドニーで、オーストラリアでの国際大会が21年ぶりに行われました。これまで交換留学生事業を通じて、交流の深いオーストラリアということで、開会式の翌日にもかかわらず、第2510地区主催の「北海道ナイト」には70名を超える会員家族の参加がありました。その上、安孫子ガバナーご夫妻、羽部ガバナーエレクトとご令嬢、嵯峨ガバナーノミニーご夫妻、そして、次期ガバナーノミニーの武部ご夫妻の参加をいただき、会を盛り上げていただきました。そして、北海道ナイトの前々日から、金久保・杉江・出村・谷口・松原・斉藤（昌）地区委員・委員長の方々に会場その他のセッティングをしていただき、楽しいひと時を過ごすことができました。また、会場もオペラハウスを真ん前から眺められるレストランで、当日行われたレーザー光線による光の祭典の中心にあり、素晴らしい日本料理も堪能し、且つ又、楽しいゲームもあり、参加者の交流が行われました。例年の如く参加要請には、日本旅行・産経海外旅行の方々にも協力していただきました。

なお、国際大会の開会式は、例年に比べると盛り上がりかけた感じもありましたが、帰りの会場の外で偶然田中作次R I 元会長にお会いでき記念写真をとることができる場面もありました。参加者の公式発表は、世界から18,063名第一位はオーストラリア4,623名、第二位は米国で3,488名、第三位は日本で2,441名の参加がありました。



 文献資料室

委員長：松根 壽史男（札幌幌南RC）

今年度の文献資料室の委員長を無事卒業でき、皆様の協力と文献資料室の委員の多大なご援助に対し、厚くお礼申し上げます。

八木前委員長よりの方針でありました、アナログからデジタルへの移行も構築され、各クラブとの連携も確立されたと思います。

今期の目標も原点に戻るとの表題で、各クラブ及び地区委員会での会員の増強という点で合致されたと考えられます。

今後は地区史編纂委員会の委員に選出されましたので、微力ながら文献資料室に貢献していきたいと思っております。

今後とも、皆様のご指導の程よろしくお願い申し上げます。



 クラブ奉仕委員会

委員長：宮部 光幸（札幌モーニングRC）

クラブ戦略計画のマニュアル作成に先立ち、安孫子ガバナーはクラブの活動の実態把握を求めた・・・地区クラブ奉仕委員会では2009年以降、CLPの導入推進を担当してきた。当該年度、導入数は17クラブであったが、2011年、熊澤年度に積極的な導入の推進を実施。この年の委員会のクラブ調査は回答率70%余であったが、導入率は70%台となり、CLPに一応の目途が立った。2012年度にCLP特別委員会が設置され、次のステップ、長期計画(後に戦略計画)へ向けてのモデル作成に入った。本年度の開始にあたり、戦略計画推進について協議する中、安孫子ガバナーの意見は『CLP導入以降のクラブの実態が見えていない』との意見であった。『地区の棚卸』をする、何とも商人らしい発想に驚かされた。

補遺資料3の全体集計の結果、浮かび上がったのはRIからの情報量の偏差がありながら、連綿と続くクラブの実態・・・クラブの活動の実態を把握すべく、クラブ会長要覧補遺資料3『効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指標』の全項目・全クラブの調査を実施した。結果、①CLPは59%のクラブで実施されていた。特筆すべきは札幌の大クラブの実施②近年のRIの活動方針への合致は別として、奉仕活動は全クラブで150余に及び、当地区のロータリーの奉仕活動は健在であった③ただ新しいRIの方針の伝達はグループにより極端に差があった。

結論は当委員会はRIの方針に沿って活動しているが、加えて現在も連綿と続く奉仕活動の実態に即した『クラブの声を聴く必要性である』ということ。活動は『総論から各論へ』、『RIの方針のトレース』から、『地区の実態に即して展開すること』が必要になっていた。これを受け、クラブの記述回答の検討を行った(宇野・手稲)。

回答からは地区内での多様な奉仕活動が浮かび上がった。その活動が地域の教育文化の中核である奉仕あり、その街の祭の担い手そのものであり、なんと言ってもロータリーは地域を紹介するショウケースである。RIの推進するクラブ像との隔たりがあっても、今そこにロータリーの活動があることが素晴らしいと実感させられた。

羽部エレクトの言葉『ロータリーは金太郎飴でなくてよい』。飴を割ったら、かぐや姫、何なら『e-太郎』でも良いのだ。クラブの多様性をもっと知合うことが求められていると実感し、地区研修セミナーにおいて『My Rotaryにクラブ情報を書き込む』へのミニセミナーを実施した(堀元・札幌南)。



広報・IC委員会

委員長：堀江 和美（砂川RC）

委員が分担してメールマガジンを配信しました。内容は、「ハイライトよねやま」、「ロータリー為替レートのお知らせ」、「地区ホームページ更新のお知らせ」等です。現在の登録者数は約500名で、1年間で配信したメールは約70件でした。この中には、RIからのお知らせ、地区からのお知らせ等も含まれていますが、次年度以降、メールマガジンの活用として地区からの情報発信等が活発になるようにできればと思います。

地区ウェブサイトでは、投稿約280件、訪問者数は約31,000人（2013/7/1～2014/6/30）でありました。地区奨学金委員会から、記事掲載要請がありました。このように、地区委員会との連携を推進していく必要があると再認識をしました。

当委員会は、2年前から委員会名称に広報が付け加えられました。広報には、会員向けの広報と会員以外の方々にロータリーを理解していただく広報の2つがあると考えていますが、情報の整理として「R I D 2510資料集」というサイトも立ち上げています。会員皆様からのご感想をお聞かせ願えればと思います。

なお、羽部年度からは、広報委員会とIC委員会に分離されることになっています。いままで以上に当該委員会に、会員皆様の温かいご支援を賜ることをお願いして、感謝しつつ報告とさせていただきます。



職業奉仕委員会

委員長：福田 武男（千歳RC）

『職業奉仕は心を作ることから』

羽部年度の代表幹事を務めるため1年で委員長を降りざるを得なくなった田澤前委員長の代打として、突如、地区委員2年目の私が委員長を引き継ぐことになりました。ところで、何がロータリーをここまで魅力のないものになっているか。我が国でも今世紀に入って会員減少の勢いは未だに止まらず、100を超えるクラブが消滅している。それはもしかしたら四半世紀を超えるR Iの職業奉仕の軽視、これが根源的な原因となっているのでは。即ちR Iがあまりにも「増強」、「財団」ばかりを強調し過ぎてきたことがボディーブローのように影響してきているのか。米国や日本などのロータリー先進国での著しい会員の高齢化により、組織を維持していくためには「増強」は避けて通ることのできないことであり、また「ポリオ撲滅はロータリーの誇り」であり、ポリオ・プラスはR Iの最優先項目であることはロータリアンなら誰もが認めるところです。しかしロータリーについてよく理解もできないうちに、頭ごなしに「人集め」、「金集め」では反発したくなるのが人間の性では。ロータリーの奉仕は、「心を作る」ことから始まるのでは。例えばただ単なる心のない寄付行為は、それが仮に多額のものであってもロータリーの奉仕とは言わないのです。「心を作ること」と「増強・財団」は車の両輪であり、どちらに比重がかかってもその歩みは蛇行し、ロータリーの夢に向かってへ力強く進んでいくことはできないでしょう。すなわちロータリーの会員が真のロータリアンとなるには、「奉仕の理念（理想）」の会得を避けて通ることにはできないのです。この「奉仕の理念」を地区内すべてのクラブ委員会と共に考えそして伝えていくこと、これが委員会の最大の任務と考えています。今年度は安孫子ガバナーの寛大なご指導のもと、塚原カウンセラーからの的確なアドバイスを多々頂き、また地区委員の方々にもたいへんご協力を頂きながら無事終えることができました。みなさまに心から感謝いたします。



社会奉仕委員会
委員長：清水 哲（札幌東RC）
『いろいろなクラブ』

社会奉仕委員会は、地区の全クラブにあり、それぞれしっかり活動をなさっているの
で、地区委員会としての奉仕活動は活発になりづらいのが実情です。しかし、最近の社
会奉仕委員会は、キッズキャンプでの活動の一翼を担わせていただき、年々新たな体験
をさせていただきました。これについては、一年前のガバナー月信に述べさせていただきました
ので、ご覧ください。

今まで、メーキャップのために、札幌市内の近隣のクラブ例会に参加することは多々ありましたが、地区
委員長を仰せつかったため、札幌市外の例会に参加する機会が多くなりました。進行は幹事さんが当然と思
っていましたがSAAが行っている例会、ニコニコボックスがザルでテーブルの間を渡っていく例会、食事
をとにかくサッサと終えてそれから5分間ほどの余裕をもってから卓話が始まる例会、などなど様々な例会
運営を体験させていただき、まさにロータリーは、個性的で自立した各クラブからなりたっていることを直
接感じました。

みなさんも、地区委員に誘われた場合は、新しい魅力的な体験へのお誘いと考え、ぜひ一步を踏み出して
ください。地区委員と委員長としての5年間お世話になったみなさんに感謝。



国際奉仕委員会
委員長：松原 重俊（砂川RC）
世界の子供たちの笑顔のために一私達にできること Part 2—

今年度も、タイ国3地区（第3340地区ノンカイ、第3350地区アムナットチャロエン、
第3360地区チェンマイ）の実情に応じた事業を実施し検証も行いました。今年度の検証
ツアーは、タイ国内の政治情勢の影響を受けて、出発間際まで日程の変更を強いられる
など、参加メンバーにとってもタイ国ロータリアンにとっても予定外でしたが、両国の
友情によって有意義な検証ツアーになりました。

タイ国と10年以上に渡って、水事業・図書館事業・チェックダムなどを中心に事業を実施する中で、両親
に置いて行かれたり、亡くなったり、虐待を受けて保護されたりなど犠牲になっている子ども達が増加して
いる現状があることを知りました。この現状の中で子ども達が将来ストリートチルドレンなどにならずに社
会の中で生きていくための教育や職業訓練を受けるために、「教育訓練支援事業、図書館事業」などがより必
要であると言うことを確信しました。そのために現在、ロータリー財団の協力を受け地区補助金・グローバ
ルグラント（GG）を利用、さらに職業研修チーム（VTT）委員会と合同でこれらの事業を展開していく
ための準備をしております。両国のロータリアンがタイ国の現状を理解した上で、将来を担う子ども達にと
って、最も必要になる事業として力を注いでいきたいと思っております。そのためには、地区内各クラブの
皆様のご協力がより必要になっていきます。今後、事業を継続することは当然の事として、培ってきた友情
と絆をさらに深く強いものにし、世界の子供たちがいつも明るい笑顔でいられるような事業展開をしていき
たいと思っております。

そして、2013-14年度は、地区内39のクラブから地区国際奉仕事業へ申請を頂き、本当に素晴らし活動が
できた一年になりました。この場を借りて、ご協力頂いたクラブの皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



新世代奉仕委員会

委員長：柳 孝一（札幌幌南RC）

『充実した1年間だったと思いたい』

安孫子ガバナーにお許しを頂き、4年目の委員長を無事務めたと思いたいです。

先ずは昨年念願だったRYLA委員会が新設され、RYLAが復活しました。今年度毎月行われたRYLA委員会に毎回参加しました。5月に開催したRYLAは、ロータリーをあまり知らない、若者を対象に行われたことは、本来のRYLAが全うできたかなと思っています。

昨年度9クラブから依頼された卓話も今年は3回に減り、やはり4年目は飽きられたか実感しましたが、ローターアクト委員会も含め9年間も新世代畑にいと、地区内ロータリアンから青少年交換のことを尋ねられたり、インターアクトやローターアクトのことを聞かれたり、最後は便利屋さん状態でしたが、面識の少ないロータリアンから声をかけられることは、クラブ・委員会以外にも仲間が増えたように見え、大変嬉しかった出来事です。

今年度11月24日に行った「ロータリーのための新世代会議」は、地区内約50クラブ120人のロータリアンに参加頂きました。インターアクトは顧問の先生から、ローターアクトはローターアクト地区代表から、青少年交換は現在日本に住んでいるオーストラリアの学友から、それぞれに現場の生の声で現状を紹介して頂きました。半年後に行われるRYLAの骨子と趣旨を早々にアピール出来たことは、委員会として最大の行事でした。

数年前までは、インターアクト委員会・ローターアクト委員会・青少年交換委員会の3つの委員会がうまく連動していたと言えませんでした。インターアクト年次大会にローターアクト委員長が参加するようになったり、青少年交換学友、インターアクト卒業生やRYLA参加者がローターアクトクラブに入会したこと。特に、ローターアクトを卒業してすぐに提唱ロータリークラブに入会するメンバーがここ数年続いていることは、新世代奉仕委員会で活動した一番の喜びです。誰も祝ってくれませんが、私もようやく卒業できます。ありがとうございました。感謝です。



ローターアクト委員会

委員長：坂井 治（千歳セントラルRC）

ローターアクト委員長の仕事は昨年2月の全国研修会（熊本）への参加から始まりました。全国規模の大きな会議の運営を主にローターアクトが担っていることに驚きました。

6月には委員長予定者としてインターアクト年次大会に参加させていただきローターアクトのことをPRしました。前委員長時代から続けてきたPRがようやく実を結び今年の春に1名の入会がありました。また青少年交換学友（ROTEX）やRYLAからも入会がありようやく横の連携も取れてきたように感じました。

ローターアクト地区大会や地区を超えての北海道交流会や第2500地区の地区大会にも参加し地区外のローターアクトの活動を学びました。

海外研修ではタイのチェンマイにある「バンサーイターン」というエイズ関連の職業訓練施設を訪問し身分格差のある国の実情やエイズへの感染経路などについても現地事情を学ぶことができました。意外なことに韓国や日本が感染源になっているというショッキングな話も聞き改めて認識不足を感じました。日本では抗エイズ薬の良いものが入手できますが低所得のタイでは罹患したら治療を受けることもできないのが現状のようです。

今年度の最大の成果は今まで行ったことの無い、各ローターアクトクラブの例会への「ガバナー訪問」でした。日頃ガバナーと接点のないローターアクターが直接身近に話げできたのは大きな一歩だと思えます。

またガバナー補佐も3クラブで4名にご参加いただきました。ガバナー、ガバナー補佐が来てくださることによって提唱クラブのメンバーや近隣クラブのメンバーにも参加して頂くことができ、相互理解を深めることができました。

ロータリアンとローターアクターがお互いの組織や活動に理解を深め交流を深めることによって会員増強にもつながると思われます。皆様のご協力のおかげで80数名からのスタートでしたが100名に増強することもできました。



インターアクト委員会

委員長：山口 史朗（札幌東RC）

2013-2014年度を振り返り、例年恒例の2大行事でございます、海外研修旅行と年次大会についてご報告申し上げます。

【海外研修旅行】

8月4日～7日までの3泊4日の行程で台湾訪問。今回のテーマは、「台湾の歴史と文化を学び、友好と交流を深めよう」です。主なスケジュールをご紹介します。一日目と四日目は移動日。二日目、忠烈祠で衛兵交代式を見学。故宮博物館で数々の至宝を鑑賞。JTB現地法人元社長の台湾歴史講話を拝聴し質疑応答。高雄の六号路夜市を散策。三日目、壽山・蓮池潭・烏山頭ダムなどを見学。メインイベントである台湾アクトとの交流。交流会では、盛大に熱烈な歓迎を受け、歓喜の笑顔。一瞬で言語や国境の壁を乗り越え、交流の輪が広がる。若さの素晴らしさを実感。こうした草の根で、新しい世代の交流を積重ねることが、過去を乗り越え信頼関係を構築し、真に友好的な相互関係に繋がると感じました。後日、数か月振りに、参加したアクターに再会した時、心なしか遅く成長した姿を頼もしく思いました。研修旅行後も台湾のアクターとの交流を続け、自分の将来の方向性をしっかり見つめる瞳に、未来に輝く可能性を想像しました。



研修旅行の交流会（日台IAC一緒にダンス）

【年次大会】

札幌モーニングRCと札幌龍谷学園高等学校のホストにより、6月28・29日の二日間、NTT北海道セミナーセンターで開催されました。テーマは、「今時（いま）の私たちが未来へ届けよう～自然を通じてつながる過去・現在（いま）・未来～」です。札幌モーニングRCが10年余り続けている「カミネッコン植樹」をメインに、ポットの製作から植樹まで



年次大会（カミネッコン植樹について知ろう）

全員参加型・体験型のプログラムでした。130名近いアクターの参加と多くのロータリアンのご登録をいただき、充実した大会だったことに心から感謝申し上げます。他校との交流や体育館でのレクも楽しく、アクターからは参加した喜びが伝わって来ました。「カミネッコン植樹」とは、再生紙ダンボールから作られた六角形型の植栽ポットに土と苗を入れ、置き植え方式での植樹です。樹種を組み合わせる寄せ植えで、定着率が高まり、有効な方法だと言われています。自然に触れる機会の少なくなった今の子供達には、新鮮な体験であると同時に、小さな行動が、確実に未来に繋がる事を考える大切な時間となったと思います。ワイワイ言いながらポットを

作り、虫に刺されたり、切り傷をつくりながらも植樹する姿に、素直な心に芽生える確かなものを感じました。植樹された木々と共に、立派に成長して欲しいと念願しつつ、報告の結びと致します。



青少年交換委員会

委員長：出口 修（札幌大通公園RC）

2013-14年度は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、フィンランドの4か国に8名の学生を派遣し、フィンランドを除く3か国から5名の学生を受入しました。青少年交換は通常は相手先地区と1対1の交換ですが、今年度は受入のない派遣のみという学生が結果的に3名となりました。

当地区では1年間の交換プログラムをメインに実施しております。このプログラムは世界的に単位の取得を保証するものではなく、帰国後、出発前の同じ学年に戻る学生がほとんどです。高校を1年留年しても、海外での1年間の経験のほうが有意義であるとする学生がこのプログラムに参加しているわけです。しかし、日本は少子高齢化に代表される成熟社会に達したこともあり、最近の若年層は内向き志向が強く、海外に敢えてチャレンジする学生は年々減少傾向にあります。当地区青少年交換委員会として、かかる状況を嘆くのではなく、時代の変化に対応したプログラムの見直しが欠かせないと考えております。例えば、今までのロータリー関係者を中心とした募集体制から、地域の学校と連携した幅の広い募集を行うというのもひとつです。また、1年間という長期プログラムだけではなく、夏休みや冬休みを利用した1か月間の短期交換プログラムの積極的な推進も重要であると考えます。

一方、国際ロータリーでは、新世代交換(18歳から25歳)の積極的な推進も図られており、当地区でも大学生を対象とし、1か月から3か月の期間の海外派遣プログラムを導入したいと考えております。インターアクト、ローターアクト、ライラという青少年奉仕プログラム全体として連携を図り、未来のロータリアンを育成する活動に当委員会としても積極的にチャレンジしていきたいと思っております。



RYLA委員会

委員長：舩田 雅彦（札幌幌南RC）

2013-2014年度をもってRYLA委員長を退任することになりましたので、ここに退任のご挨拶をさせていただきます。

今年度は、前年度当地区に7年ぶりに復活したRYLAを定着させる年度にしたいとの思いから、今後のRYLAのモデルとなるものを作り上げたいとの意気込みで委員会の皆さんにも積極的に関与していただき、2014年4月19、20日の両日にRYLAセミナーを開催することができました。

私自身は所属クラブの事情もあって委員長を2年で退任することになりましたが、2年間で感じたことは、RYLAによってロータリーは新たな広がりを手にするのではないかとということでした。

RYLAは、地区内の各クラブに、将来のリーダーにふさわしいと思われる新世代の若者を推薦していただき、彼ら彼女らに魅力的な様々な体験を提供することを通じて、ロータリーの理念を理解しているリーダーを育成し、社会の様々な場所にロータリーの思想を広めようという狙いで実施されるものだと考えています。

そのため、各クラブの協力がなければRYLAの参加者を集めることもできず、今年度も一番苦労したのは参加者募集でした。

しかし、そのプロセスで、各クラブに推薦を求めただけでなく、ロータリアン個々人もRYLA参加者を推薦できるとしたことから、ロータリアンの企業の従業員や子弟に参加してもらうということが可能になりました。

その結果、RYLAは、若者たちの教育に悩んでいるロータリアン世代の人たちに、若者を送り出して学ばせる場を提供するというこれまでとは別の意義を持つようになったのではないかと感じました。そこで学

んだ若者が組織内のリーダーとして力を発揮すれば、RYLAは、参加者が将来のロータリアンに育つのを待つだけでなく、参加者の雇用主たちをロータリーに誘うためのツールとしても機能するのではないかとも思えるのです。

このような可能性を秘めているRYLAを有効に使えるかどうかは、ロータリーのメンバーがRYLAの価値を正しく理解して、有効に使いこなせるかどうかにかかっています。

そのためには、RYLA委員会の広報活動もより積極的に行う必要がありますが、その活動は次年度以降の委員の皆さんに託したいと思います。

これまでの2年間、ご協力ありがとうございました。次年度以降もRYLA委員会へのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



ロータリー財団委員会

委員長：遠藤 秀雄（登別RC・PG）

ロータリー財団の使命は「ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」であります。そのために私達2510地区の財団委員会は財団資金管理委員会、財団補助金委員会、財団資金推進委員会、奨学金委員会、職業研修チーム委員会、財団学友委員会から成っています。すなわちロータリアンや一般の方々から多くの浄財を寄付して頂き、それを地域社会に、また国際社会にロータリアンが奉仕活動として成果をあげられるようにお手伝いをさせて頂く組織であります。

2013-14年度から「未来の夢計画」がスタートをしました。これは財団の使命に沿ってプログラムと運営を簡素化することが目的の1つであります。これまで細かく分かれていた補助金が地区補助金、グローバル補助金とパッケージ・グラントとなり、地区補助金はその裁量権が地区に移り、比較的使い易くなりました。3年前の年次寄付と恒久寄付の運用益から162,000ドルから地区補助金として80,000ドルが入金され、その半分が地域奉仕活動資金として配分され、残り40,000ドル2名の奨学生と国際奉仕活動及び災害援助に役立てることが出来ました。グローバル補助金については計画立案すべてを地元に行う必要から手間取って奨学生、職業研修チーム派遣は次年度になります。

新しい補助金制度初年度で地区もクラブもとまどうことが多く、苦勞の多い1年だったと思いますが、早く慣れて、実りの多い活動が出来ればと願っています。



財団資金管理委員会

委員長：久保田 俊昭（札幌RC）

新しい補助金プログラムの本実施にあたって

2013-2014年度のスタートにあたり、財団委員会の下部組織として新たに設置された資金管理委員会の委員長を仰せつかり、財団の新しい補助金プログラムをスムーズに軌道に乗せるべく、諸活動を進めて参りました。

国際ロータリーの使命は、「世界理解、親善、平和を維持すること」であります。同じ使命の財団としても、各クラブが地域密着での各種奉仕プロジェクト等を展開するうえで、皆様方の善意に因る浄財を効率的に活用するためにも、効果的・適正な配分に留意していかねばならないものと思っております。

2013-2014年度は、過去に財団が実践してきたプログラム（地区補助金、マッチング・グラント等）の成果を取り纏めつつ、今年度から新たにスタートした「新補助金プログラム」を、先行パイロット地区での実施事例を参考にしつつ、当地区としても遺漏無きようスムーズに軌道に乗せていく必要があります。

財団グループとしては、地区内の関係委員会や地区幹事等のご支援を頂きながら検討をすすめ、また各クラブへの周知・連絡を密に重ねた結果、クラブの関心も高まり、地区補助金の申込みは34件に達しました(例年、10数件の申込み)。

なおクラブが、新しい地区補助金を活用して各種プロジェクトを早期に実施できるよう、地区としては、実施年度の前年度の6月末までに財団へ申請することとし、クラブからの地区への申込み期限を3月末としております。

このために、クラブにおかれましては、業務処理を計画年度と実施年度の2カ年にまたがって行なわねばならなくなりますので、提案・実施・結果報告等の引継ぎ体制について十分留意されますよう宜しくお願い申し上げます。

2013-2014年度におきましては、旧来の財団プログラムの終結処理と、2013-2014年度から本格実施した新しい補助金プログラムの実施に向けて、クラブ支援や地区内関係委員会との協議を重ねて参りましたが、今後ともロータリアン皆様方の温かいご指導・ご協力をお願い申し上げます。



財団資金推進委員会

委員長：鍋谷 操子 (函館セントラルRC)

寄付により世界での奉仕活動に参画しよう

財団の「未来の夢計画」のスタートに際して、財団委員会の下に新設された「財団資金推進委員会」の初代委員長を仰せつかりました。当委員会では地区における財団への募金活動と寄付者の表彰や認証を管理・監督する役目を担っております。

1917年の国際大会で、6人目のRI会長のアーチ C. クランフは、ロータリー基金の創設を呼びかけました。翌年、カンザスシティーRCが26.5ドルを基金に寄付しましたが、これがロータリー基金にとっての最初の寄付金であります。

また、ロータリー財団が最初のプログラムとして実施したのが、18名の大学院生への奨学金の贈呈ですが、これが旧来の国際親善奨学金制度の始まりであります。

その後、財団は多くのプログラムを生み、多くの賛同と参加を得てきましたが、今や大きく変わろうとしております。

私達が、地域社会や国際社会で奉仕活動をさらに強化・増大していくためには、奉仕活動の充実と資金面での援助が必要であります。2004年規定審議会では、「Every Rotarian Every Year」が支持され、1人1人が、毎年、寄付をしてほしいということが決議されております。その後、日本の財団役員からは、日本全体の寄付額の平均(137ドル)から推して、2012年度の途中から一人150ドルをお願いするように求められております。

これを受けて、当地区としては、2013年度には「毎年あなたも100ドル以上」を寄付することを目標に掲げ、さらに地区全体の年次寄付の目標額は、会員数から推して30万ドルとしました(2014年度からは、一人当たり寄付額は150ドル、地区目標は35万ドルとしております)。

また寄付金としては、上記の年次寄付以外に、恒久基金、指定用途寄付、ポリオ撲滅への協力についてもお願いして参りました。しかしながら、ロータリアンの皆様のご理解が進んでいないのが残念でなりません。

しかしながら他方、「大口寄付者(Major Donors)やポール・ハリス・ソサエティが増えたことが大きな成果だと思っており、ご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

なお、財団への寄付に対しては、寄付者に分かり易い形で、寄付行為に感謝の念を表す「認証」があり(寄付者とすぐに分かるように着用できるピンなどを寄付者に贈る)、また、個人や法人の寄付に対して、税制上の優遇措置を講じることができるようになっております。

社会経済情勢が先行き不安定で、景気回復に向けての足取りも定かでない今日、財団へのご寄付をお願い申し上げますことは誠に心苦しいことではあります。しかしながら寄付をすることによって、世界中の奉仕活動に参加していることにも通じますので、国際ロータリーの活動を支援するという見地においても、皆様

方の暖かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。



職業研修チーム委員会

委員長：神部 洋史（滝川RC）

「未来の夢計画」によって、それまでの研究グループ交換（GSE）の交換事業から職業研修チーム（VTT）の派遣や受入を行う委員会に衣替えとなりましたが、この委員会の役割を一言で表現すると「海外の地区に専門職種のスキルアップを図るためのチームを組織し派遣する」となっています。このVTTに関しては財団の補助金で活動ができるようになってきました。地区補助金やグローバル補助金のほかパッケージグラントも利用可能な事業になってきましたので、資金的には大変に恵まれた事業展開が出来るのではないだろうかという甘い考えで取り掛かりましたが、前提条件が色々あり、このハードルが以外に高く、世界のどこにこのプロジェクトを必要としている地区があるのかさえ解らないまま、この委員会があるべき方向の模索をするしかありませんでした、というのが2013-2014年度のわが委員会の総括としか言えないところでしたが、前年度の期末近くになって、国際奉仕委員会とコラボレーションした職業研修チームを派遣する希望がタイ側から出されました。国際奉仕委員会が企画しているタイでの教育支援などの活動に付随して、孤児達の未来を拓くために、彼らの手に職を付ける目的で、またその地域の経済基盤の発展を支援する目的で、孤児達や彼らを指導する先生方に、専門的な洋服の縫製作業の職業訓練を行うチームの派遣の話が持ち上がり、急遽当委員会は活動しているところであります。このことは次年度の活動となるのですが、ある程度具体的になった初めてのVTT事業計画を確実に実行していく所存でございますので、宜しくご理解をお願い申し上げます。



財団補助金委員会

委員長：中山 裕視（札幌真駒内RC）

今年度はロータリー財団の未来の夢計画の実行年度です。今までの補助金制度が変革しました。それにより、地区補助金は今までのように人道的活動に限定されなくなりましたので、広くいろいろな活動が各クラブから申請されました。申請件数も今までとは数段多い34件ありました。はじめての制度実行ですので、補助金支給対象としては適当と思えない案件もいくつかありました。委員会で時間をかけて審議を重ねて検討しました。また、多くの申請各クラブと何回も話をしながら理解し、納得をしてもらいながら最終結論をだしました。委員会もはじめての経験です。また申請各クラブの方々も今回の補助金制度をよく理解しないで申請されたようにも思います。

当地区の制度変革後はじめての申請案件決定は27件、補助金支給総額は3,730,000円でした。今後、試行錯誤しながらより良い補助金制度として育っていくと思います。今年度の補助金申請手続きにおいて、ご協力をいただきました多くの関係方々に深く感謝いたします。どうもありがとうございました。



奨学委員会

委員長：齊藤 博司（千歳セントラルRC）

＝委員長1年目を終えて＝

本年度より「未来の夢計画」にのっとり、新制度下で初めての留学生を送る事業でした。2013-14年度は8件（問い合わせを含む10件）の応募がありました。地区補助金を利用しての文化研修生（社会人を優先）は、3ヶ月・6ヶ月の派遣でした。また、グローバル補助金を利用しての1年間の留学。これは大学院レベルの研究テーマが必要で、大

学生以上を対象者としました。

これには色々な条件が余りにも多く、中でも留学にあたっての6つの重点分野（R Iからの指示）の研究テーマに沿ったものでなければならない、とあります。この重点分野に沿った小論文を作成し、なおかつロータリー財団を納得させなければならないこと！が大変でした。これには当地区財団委員・学友委員会および学友会の絶大なる協力がなければできなかったでしょう。

結果として、最終選考面接を行い3名の合格者を奨学生候補者と致しました。すなわち、2013-14年度財団奨学生としては、地区補助金を利用しての3ヶ月文化研修留学としてイタリアに派遣。6ヶ月文化研修留学としてアメリカに派遣を行いました。今現在は各々の国で語学研修と各テーマに沿った研修を行っております。帰国してからの報告を楽しみにしております。

また、グローバル補助金を利用しての留学者は、2015-16年度にドイツに留学する予定でほぼ確定しております。そして、奨学生の出発から帰国までの間に何かとアドバイスする相談者が必要になります。これに対しては、すでに当該国の経験者である財団学友会会員を活用し、アドバイザーとして当委員会に所属してもらっております。留学先で、メールなどで情報交換などを行っているみたいです。



財団学友委員会

委員長：菅原 秀二（札幌大通公園RC）

—2年目の活動を終えて—

今年度も「帰国報告会」を軸に活動してきました。「帰国報告会」と「学友会総会」が同時に開催され、それに間に合うようにニュースレターの最新号も作成されました。今年度は4名の国際親善奨学生の報告を予定していたのですが、当日になってそのうちの1名の体調がすぐれず、キャンセルとなりました。せっかくおいでくださったスポンサークラブの皆様にはご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。ただ、全体としては学友やロータリアンを中心に40名ほどの出席があり、盛会となりました。ガバナーはじめ、御出席のロータリアンの皆様にはこの場を借りて、御礼申し上げます。

また、私自身が長く国際親善奨学金に関わってきたこともあり、昨年度より、新しい奨学金の制度設計に協力させていただきました。その関係で、財団委員会と奨学金委員会との協力の下に、新奨学生の選考委員に加えていただきました。また、財団学友会と共に、奨学生のオリエンテーションや留学中のサポートに関しても、協力させていただいています。今後は、職業研修チームからも新たな学友を迎えることができることを期待しています。



米山記念奨学委員会

委員長：渡邊 葉子（札幌西北RC）

今年度より、委員長を務めることとなりました。前任委員長が、委員会に残って下さいましたのでお教えを頂きながら、よちよち歩きの1年でした。

この1年を振り返りますと、昨年度のR Iテーマ“奉仕を通じて世界平和を”を实践する活動が米山記念奨学事業であると痛感いたしました。ロータリーにはたくさん青年のためのプログラムがありますが、日本独自の米山記念奨学事業は、日本のロータリーが世界に誇るべき活動である事を学びました。将来母国と日本との架け橋となる留学生を選考し、ロータリー精神をカウンセラー・世話クラブ会員の皆様はじめ多くのロータリアンから学んでいただきます。奨学生は、ロータリアンの皆様に支えられ勉学に邁進できることを、心から感謝しております。ある奨学生が、「異国での留学生活はとても孤独で精神的に落ち込むことが在りましたが、米山奨学生となりロータリアンの皆様との交流の中から、もっと強くなり社会に役立つための勉強を一生懸命しなければいけないと思った。」と

話してくれました。とても嬉しいことでした。この様な経験をさせていただきましたことを、皆様に感謝申し上げます。

“国という枠組みを越え、人を育て世界平和を目指す”地道な活動ですが、先輩諸兄のご努力で元奨学生が世界中で活躍しております。当地区に於いても教育界・医療分野等多方面で活躍している学友がおります。今後も継続・発展させるため、皆様のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



米山学友委員会

委員長：半田 善行（小樽RC）

「徐々に広がりを見せる米山学友会」

今年度も学友会の行事にご協力して頂いた安孫子ガバナー始め塚原米山記念奨学会理事、地区の委員長、ロータリアンの方々に活動の支えになって頂いた事を感謝申し上げます。

今年度は、7月に小樽にて「うしお祭り」に便乗し米山記念奨学生と学友数名と踊りに参加、安孫子ガバナーも一緒に踊りました。踊りの終了後塩谷の海岸沿いの「迎賓館」にて米山学友会の家族懇親会を開きました、安孫子ガバナーも踊りの疲れも見せずロータリアンの方々の参加を頂き屋外バーベキューを天気にも恵まれて盛大に開催できました。

定期行事の定時総会も11月に行われ、今年に入っては「財団学友会」の総会にも数名参加、5月には「長沼国際交流フェスティバル」に参加、6月には家族懇親会をガトーキングにて開催しました。安孫子ガバナーも国際大会の後でしたが元気に参加されて7月から始まり最後の6月まで参加頂き有難う御座います。又今年も3年連続で学友会の幹事でベトナム出身の女性が日本の男性と結婚されました学友会のメンバーが地域に根付く事が大変嬉しく思います。

さて近年アジア周辺にて「学友会」が設立されていますのはご存知の方も多くいると思いますが、改めてご紹介いたします。「米山学友会」は31年前に台湾にて発足後6年後に韓国に設立した後20年後の2009年に中国に設立されると。2012年にタイ、2013年にネパール、今年度の2014年にはモンゴルに設立されましたこれには長年のロータリアンが継続的な寄付と援助が成果として徐々に現れたと思われまますこの「米山学友会」の広がりが将来私達がたと日本とのさらなる平和の架橋となる事と思います。



第24回日本ロータリー親睦ゴルフ北海道大会

大会実行委員長

菊地 弘嗣

(札幌東RC)

第24回日本ロータリー親睦ゴルフ（JGF R）北海道大会が6月23日、ツキサップゴルフクラブにおいて、今年も札幌東RCがホストクラブ、そして札幌南RCがコ・ホストクラブとして開催されました。今年は大会開催の案内が大幅に遅れた為に参加人数が大幅に少なくなってしまいました。しかし、市内・道内のロータリアンが多数参加していただき、OUT 8組、IN 7組により青空の下スタートして行きました。怪我も無く全員無事ホールアウトして来たが、今年は毛虫が異常発生して、女性陣には大変なプレーだったと思います。この近くのゴルフコース全てで今年は異常発生した模様です。各組アテスト終了後、入浴で汗を流し、表彰式会場の各組テーブルで食事をしながら成績発表を待っていました。



羽部大仁大会会長代理
(R I第2510地区ガバナーエレクト)

山口史朗（札幌東RC）の司会で、羽部大仁（ガバナーエレクト）大会会長代理のご挨拶から始まり、大会実行委員長菊地弘嗣（札幌東RC）の挨拶、菊地章（札幌東RC会長）の乾杯の発声で表彰式・懇親会が始まりました。



優勝 末永勝昭さん（大垣中RC）

今年は、参加者が例年に比べ少ない為、本来なら、シニア・一般・レディースの3部門にわけていましたが、分けずに表彰はまとめて行われ、レディースは全員に特別賞が贈られました。参加して頂いたロータリアンたちはゴルフを通じてより深い親睦を深めていたようです。成績は下記のようにになりました。

優勝は末永勝昭（大垣中RC）さん、グロス91・ネット71.8、準優勝は吉田純一（福岡南RC）さん、グロス89・ネット72.2でした。



準優勝 吉田純一さん（福岡南RC）

入賞した方々には今年も「にこにこ」に協力頂きまして有難うございました。今年も、神代隆（東海那珂RC）さんよりJGF R大洗大会のPRの話があり、深貝亨（札幌南RC会長）の閉会の挨拶で第24回JGF R北海道大会は閉会となりました。



深貝亨大会副会長
(札幌南RC会長)

成績表



優勝 末永 勝昭
準優勝 吉田 純一

3位 尼子 直喜
4位 菊地 章
5位 永見 吉平
6位 村橋 元

7位 日野岡信太郎
8位 田中 由彦
9位 高江 一王
10位 神代 隆

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

札幌西北RC	大島 利一	会員 (3回)	5月30日
苫小牧北RC	菊地 芳彦	会員 (2回)	5月28日
滝川RC	宮崎 英彰	会員 (1回)	6月19日
滝川RC	坂田 秀昭	会員 (1回)	6月19日
滝川RC	上田 秀司	会員 (1回)	6月19日
滝川RC	篠島 弘	会員 (7回)	6月19日
岩見沢RC	中路 幹雄	会員 (1回)	6月30日
岩見沢RC	玉田 忠	会員 (1回)	6月30日
岩見沢RC	谷口 弘	会員 (2回)	6月30日
岩見沢RC	高谷 郁男	会員 (2回)	6月30日
岩見沢RC	谷 勲	会員 (3回)	6月30日
岩見沢RC	武蔵 輝彦	会員 (3回)	6月30日
札幌モーニングRC	広瀬 進	会員 (1回)	6月27日
札幌モーニングRC	露木 茂	会員 (1回)	6月27日
札幌モーニングRC	小松崎文一	会員 (1回)	6月27日
札幌手稲RC	山地 庸夫	会員 (10回)	6月23日
札幌東RC	高橋 徹	会員 (4回)	6月30日
札幌清田RC	中村 隆	会員 (1回)	6月26日
札幌清田RC	西澤 寛俊	会員 (1回)	6月26日
札幌清田RC	真鍋 昌市	会員 (2回)	6月26日
札幌清田RC	小島 健	会員 (1回)	6月27日
伊達RC	渡部 良一	会員 (1回)	6月10日
函館五稜郭RC	酒井 正人	会員 (16回)	6月6日
函館五稜郭RC	河村 隆平	会員 (5回)	6月16日

米山功労クラブ

滝川RC	30回	6月19日
岩見沢RC	29回	6月30日
札幌清田RC	4回	6月27日
函館五稜郭RC	21回	6月6日

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

滝川RC	渡邊 恭久	会員 (3回)	5月
札幌真駒内RC	丸山 淳士	会員 (4回)	5月
千歳RC	川端 清	会員 (1回)	5月
千歳RC	長澤 邦雄	会員 (2回)	5月
函館亀田RC	江端 章	会員 (1回)	5月
函館亀田RC	鹿野 文男	会員 (2回)	5月
函館亀田RC	山口 勝彦	会員 (1回)	5月
函館亀田RC	玉井 清治	会員 (1回)	5月
函館亀田RC	西川 忠弘	会員 (2回)	5月
函館亀田RC	松田 武	会員 (1回)	5月
七飯RC	上野 一義	会員 (4回)	5月
苫小牧北RC	高木 一男	会員 (3回)	5月
札幌西北RC	三上 直彦	会員 (6回)	6月
札幌東RC	高橋 徹	会員 (4回)	6月
札幌真駒内RC	齋藤 康嗣	会員 (3回)	6月
小樽RC	杉江俊太郎	会員 (1回)	6月
小樽南RC	山村 弘一	会員 (1回)	6月
小樽南RC	加藤 正幸	会員 (2回)	6月
小樽南RC	松浦 光紀	会員 (1回)	6月
小樽南RC	吹越 範義	会員 (3回)	6月
小樽南RC	宮川 伸二	会員 (1回)	6月
小樽南RC	見延庄三郎	会員 (2回)	6月
長万部RC	赤塚 章	会員 (2回)	6月
函館五稜郭RC	石坂 仁	会員 (1回)	6月

ポール・ハリス・フェロー

砂川RC	沢田 広志	会員	5月
室蘭RC	多田 昌央	会員	5月
室蘭東RC	佐々木彰夫	会員	5月
室蘭東RC	若林 隆樹	会員	5月
函館亀田RC	小倉 正信	会員	5月
苫小牧RC	前田 浩人	会員	5月
札幌真駒内RC	高野 園子	会員	6月
小樽南RC	村越 仁	会員	6月
小樽南RC	佐藤 公俊	会員	6月
伊達RC	小熊 啓司	会員	6月

長万部ロータリークラブ

— 花見例会報告 —

5月25日(日)、道南最後の花見会として長万部公園で移動例会を行いました。

東京理科大学長万部キャンパスに留学中のタイ王国のナムさんも一緒に焼き肉を食べ楽しいひと時を過ごしました。



ナムさんは中央の女性の右側です。その後ろには村松会長、角次期幹事です。



新 会 員 の ご 紹 介

(敬称略)



北広島R C
名尾 圭子
入会日 7月1日
職業分類 税理士



苫小牧R C
澤山 秀哉
入会日 5月9日
職業分類 石油精製



小樽R C
船山 秀樹
入会日 5月20日
職業分類 魚粉配布



伊達R C
松浦 敏美
入会日 6月3日
職業分類 寝具小売



苫小牧北R C
中村 仁美
入会日 6月30日
職業分類 生命保険



苫小牧北R C
保科 裕之
入会日 6月30日
職業分類 不動産業



苫小牧東R C
佐藤 史典
入会日 6月30日
職業分類 土地家屋調査士

訃報

慎んでお悔やみ
申し上げますとともに
心からご冥福を
お祈り申し上げます

柏原誠一 会員 (札幌東R C)



2014年5月7日ご逝去
(享年66歳)

【ロータリー歴】

- 2005年4月7日 入会
- 2009~2010年度 クラブ会報委員長
- 2010~2011年度 副S A A
- 2011~2012年度 雑誌委員長
- 2012~2013年度 新世代奉仕副委員長
- 2013~2014年度 音楽委員長



出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2013. 7. 1	2014. 5. 31	増減	内女性	
1	深 川	3	32	35	3	2	93.94
	羽 幌	4	45	47	2	2	84.04
	妹 背 牛	4	10	12	2	0	83.33
	留 萌	4	39	41	2	3	91.66
	小 計		126	135	9	7	88.24
2	赤 平	3	30	29	-1	0	80.20
	芦 別	4	36	38	2	2	78.47
	砂 川	4	44	42	-2	0	96.34
	滝 川	5	80	83	3	2	72.00
	小 計		190	192	2	4	81.75
3	美 唄	4	28	32	4	0	86.23
	江 別	4	35	36	1	1	80.56
	江 別 西	3	26	25	-1	3	94.60
	岩 見 沢	4	76	77	1	0	91.38
	岩見沢東	3	22	23	1	3	93.49
	栗 沢	4	23	25	2	1	100.00
	栗 山	3	23	24	1	3	93.06
	当 別	3	28	27	-1	0	87.56
	小 計		261	269	8	11	90.86
4	札 幌	3	115	116	1	0	99.09
	札幌はまなす	3	13	13	0	2	87.18
	札 幌 北	3	33	34	1	3	87.50
	札幌モーニング	4	47	44	-3	0	64.02
	札 幌 西	3	52	52	0	7	88.58
	札幌西北	4	32	31	-1	3	85.40
	札幌手稲	4	32	37	5	3	90.28
	小 計		324	327	3	18	86.01
5	札 幌 東	3	117	115	-2	0	98.45
	札幌清田	3	19	19	0	5	100.00
	札幌幌南	3	52	57	5	3	100.00
	札幌真駒内	3	20	22	2	3	95.40
	札 幌 南	3	80	80	0	0	98.75
	札幌大通公園	4	14	13	-1	1	67.24
	札幌セントラル	4	6	5	-1	2	80.00
	新 札 幌	4	23	24	1	2	85.08
小 計		331	335	4	16	90.62	
6	岩 内	4	20	19	-1	1	89.70
	倶 知 安	4	37	41	4	6	80.10
	小 樽	3	69	75	6	0	87.00
	小樽南	4	69	70	1	2	87.67
	小樽銭函	5	21	21	0	2	82.65
	蘭 越	3	11	12	1	0	100.00
	余 市	4	41	45	4	4	81.75
	小 計		268	283	15	15	86.98

5月出席率・ 会員増減数	クラブ数	71クラブ
	期首会員数	2,514人
	当月末会員数(女性)	2,584人(120人)
	増加会員数	70人
	当月平均出席率	85.36%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2013. 7. 1	2014. 5. 31	増減	内女性	
7	千 歳	4	50	53	3	4	91.53
	千歳セントラル	3	31	35	4	3	88.56
	恵 庭	4	40	46	6	3	83.17
	北 広 島	3	16	17	1	1	92.15
	長 沼	3	20	20	0	3	86.60
	由 仁	4	7	5	-2	0	75.00
	小 計		164	176	12	14	86.17
8	え り も	4	21	22	1	1	88.64
	三 石	3	15	15	0	2	74.96
	様 似	3	24	24	0	1	76.39
	静 内	4	65	62	-3	0	72.05
	浦 河	3	28	25	-3	1	90.12
	小 計		153	148	-5	5	80.43
	9	伊 達	3	53	57	4	0
室 蘭		4	37	38	1	0	68.13
室 蘭 東		4	35	36	1	0	78.60
室 蘭 北		3	32	41	9	3	79.17
登 別		4	31	31	0	1	83.87
洞 爺 湖		2	8	8	0	0	93.70
小 計			196	211	15	4	80.34
10	函 館	4	85	83	-2	0	83.27
	函館亀田	3	39	41	2	5	95.83
	森	4	41	42	1	0	68.00
	七 飯	3	18	18	0	0	66.70
	長 万 部	3	9	10	1	0	70.75
	函館セントラル	3	25	28	3	2	67.14
	小 計		217	222	5	7	75.28
11	江 差	3	11	10	-1	1	86.70
	函館五稜郭	4	47	49	2	0	92.46
	函 館 東	3	48	49	1	6	83.45
	函 館 北	4	22	21	-1	0	95.18
	北 斗	4	15	16	1	0	68.00
	松 前	2	4	4	0	0	75.00
	小 計		147	149	2	7	83.47
12	白 老	4	29	31	2	2	84.20
	苫小牧	4	52	50	-2	2	90.25
	苫小牧東	4	26	27	1	5	92.59
	苫小牧北	3	30	29	-1	3	97.44
	小 計		137	137	0	12	91.12
合 計		2,514	2,584	70	120	85.36	

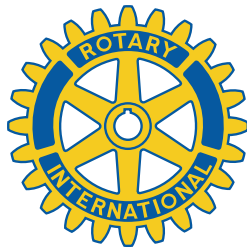
出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2013.7.1	2014.6.30	増減	内女性	
1	深川	4	32	33	1	2	91.76
	羽幌	4	45	47	2	2	76.06
	妹背牛	4	10	10	0	0	81.25
	留萌	4	39	41	2	3	93.13
	小計		126	131	5	7	85.55
2	赤平	4	30	29	-1	0	85.60
	芦別	4	36	37	1	2	77.78
	砂川	3	44	42	-2	0	91.05
	滝川	2	80	83	3	2	79.00
	小計		190	191	1	4	83.36
3	美唄	4	28	32	4	0	87.41
	江別	3	35	32	-3	1	87.96
	江別西	4	26	25	-1	3	90.00
	岩見沢	4	76	74	-2	0	91.41
	岩見沢東	4	22	23	1	3	84.16
	栗沢	4	23	25	2	1	93.00
	栗山	4	23	24	1	4	94.79
	当別	4	28	25	-3	0	85.89
	小計		261	260	-1	12	89.33
4	札幌	4	115	112	-3	0	99.07
	札幌はまなす	4	13	12	-1	2	86.54
	札幌北	5	33	33	0	3	89.38
	札幌モーニング	4	47	40	-7	0	61.76
	札幌西	4	52	50	-2	7	82.93
	札幌西北	4	32	31	-1	3	88.60
	札幌手稲	4	32	37	5	3	95.83
	小計		324	315	-9	18	86.30
5	札幌東	3	117	114	-3	0	99.09
	札幌清田	4	19	17	-2	4	100.00
	札幌幌南	4	52	58	6	4	99.15
	札幌真駒内	4	20	22	2	3	100.00
	札幌南	5	80	78	-2	0	99.25
	札幌大通公園	4	14	14	0	1	67.85
	札幌セントラル	-	6	0	-6	0	-
6	新札幌	4	23	22	-1	2	96.19
	小計		331	325	-6	14	94.50
	岩内	4	20	19	-1	1	86.92
	倶知安	4	37	41	4	6	80.30
	小樽	4	69	73	4	0	90.00
	小樽南	4	69	72	3	2	94.61
	小樽銭函	4	21	21	0	2	82.65
	蘭越	5	11	12	1	0	92.00
6	余市	4	41	45	4	4	80.00
	小計		268	283	15	15	86.64

6 月出席率・ 会員増減数	クラブ数	70クラブ
	期首会員数	2,514人
	当月末会員数(女性)	2,521人(117人)
	増加会員数	7人
	当月平均出席率	84.43%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2013.7.1	2014.6.30	増減	内女性	
7	千歳	4	50	52	2	4	88.28
	千歳セントラル	4	31	31	0	3	80.71
	恵庭	4	40	46	6	3	83.23
	北広島	4	16	17	1	1	92.65
	長沼	5	20	19	-1	3	80.00
	由仁	4	7	5	-2	0	60.00
小計		164	170	6	14	80.81	
8	えりも	4	21	20	-1	1	90.91
	三石	4	15	15	0	2	73.30
	様似	5	24	24	0	1	75.83
	静内	4	65	60	-5	0	78.33
	浦河	4	28	22	-6	1	89.84
	小計		153	141	-12	5	81.64
9	伊達	4	53	57	4	0	80.70
	室蘭	4	37	37	0	0	87.82
	室蘭東	4	35	35	0	0	77.10
	室蘭北	4	32	40	8	3	68.75
	登別	4	31	31	0	1	83.87
	洞爺湖	5	8	8	0	0	82.50
小計		196	208	12	4	80.12	
10	函館	4	85	81	-4	0	83.11
	函館亀田	4	39	41	2	5	95.00
	森	4	41	42	1	0	75.00
	七飯	4	18	18	0	0	69.00
	長万部	4	9	10	1	0	89.10
	函館セントラル	4	25	27	2	2	75.73
小計		217	219	2	7	81.16	
11	江差	4	11	10	-1	1	70.00
	函館五稜郭	4	47	46	-1	0	90.71
	函館東	4	48	46	-2	5	76.87
	函館北	4	22	21	-1	0	97.62
	北斗	4	15	15	0	0	55.00
	松前	2	4	4	0	0	50.00
小計		147	142	-5	6	73.37	
12	白老	4	29	31	2	2	84.30
	苫小牧	4	52	48	-4	2	86.52
	苫小牧東	4	26	27	1	5	81.48
	苫小牧北	4	30	30	0	2	94.23
	小計		137	136	-1	11	86.63
合 計		2,514	2,521	7	117	84.43	

※札幌セントラルロータリークラブは6月30日で国際ロータリーを脱会しました。



ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

**GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
2013-2014 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510**